



相対性理論 誕生 100 周年

アインシュタインといえば『相対性理論』、学校で物理を学習した方ならば、どなたも御存知ですよね。

1905 年(明治 38 年)、アインシュタインは、次の 3 つの論文を次々に発表しました。(Albert Einstein 1879~1955 ドイツ生まれのユダヤ人 物理学者)

- ① 光は粒子である、という考えをまとめた「**光量子論**」を発表した。(3/17)
- ② 原子の存在を明らかにした「**ブラウン運動の理論**」を発表した。(5/11)
- ③ それまでの時間や空間の概念を一新した「**特殊相対性理論**」を発表した。(6/30)

これらの論文を、若い特許局の技官が発表したことに、誰もが不思議に思い、驚いたそうです。このように、アインシュタインは、当時の物理学をまったく新しくした科学者です。今年は、相対性理論が発表されてから丁度 100 年目にあたり、**国際物理年**といわれます。

1922 年(大正 11 年)11 月 17 日~12 月 29 日の 43 日間、アインシュタインは日本に滞在して、次の言葉を残しました。

「世界は進むだけ進み、その間に、幾度も闘争を繰り返すであろう。そして、その闘争に疲れてるときが来る。そのとき、世界人類は平和を求め、そのための世界の盟主が必要になる。

その盟主とは、アジアに始まってアジアに帰る。そして、アジアの最高峰、日本に立ち返らねばならない。我々は、神に感謝する。天が我々人類に日本という国を作ってくれたことを。」

(「文藝春秋」平成 14 年 12 月臨時増刊号 158 ページから引用)

彼はなぜ、わが国を、ここまで高く評価したのか。そのような印象を与えた当時の日本人の精神性・道徳性を培ったものは何であったか、などを研究してみたいとなりました。

ここで、皆さんにアインシュタインの生の声をお聞かせしましょう。(次のホームページからどうぞ)

<http://www.aip.org/history/einstein/voice1.htm>



今月のワン・ポイント

しきそくぜくう くうそくぜしき はんにゃしんぎょう
『色即是空 空即是色』 般若心経：般若(知恵)の心を学ぶお経

原典はサンスクリット(梵語)で、この部分は、次のように書かれています。

ルーパム シュニャーター シュニャータイヴァ ルーパム
ru(-)pam(.) s(')u(-)nyata(-), s(')u(-)nyataiva ru(-)pam.
色は 空なり、 空は 実に 色なり。

般若心経の本文はわずか 266 文字で、これは、『西遊記』の三蔵法師で知られる玄奘(げんじょう 602~664)が訳したものとされます